

宮の森



大鳥居修繕

発行元・白鳥神社総代会



定かな文献ではないが、この鳥居は昭和四十七年に建立されている。その十一年前の三十六年にも建立された記録がある。それは向小駄良の酒屋の山から切り出して、建立されている。材を運び出すために、道を作った労賃の記録がある。材質は杉で、十分な乾燥をしないで、建てられたくらいが感じられる。杉材と言

う事と相まって、十年余と言つ寿命だったのではないかと推測します。

昭和三十六年一月三十日、藤路及び杉沢へ鳥居材運搬道作り人夫賃として、清水勘治、蓑島源助、日置益之助、蓑島亀之助、三輪徳三郎、野崎茂、三輪栄一、荒井与造、曾我久二、曾我井知郎、渡辺伝一、曾我健三、各氏の名前がある。当時、一日五〇〇円の日当である。それ以外に、神社会計係に宛てた支出命令書がある。それには、運搬労務費、木材賃挽き、使用資材、加工建て方労務費、食材(主に酒)等で合計五万三千七十四円が計上されている。残念ながらその十一年後の昭和四十七年に建立された記録文献は見当たらない。辛うじて、

大木を神社まで運んだ写真だけは探し出せた。以下は写真からの推測になる。材料となる大木は、美谷添清氏のご尽力で、荘川営林署関係の山から切り出したと言われる。荘川から白鳥役場(現振興事務所)までトラックで運搬。役場前で神事のお払いがなされた。この時の神社総代長は源助の蓑島克夫。巨木には白鳥神社鳥居御神木の標札を打ち付け、台車に載せ、二本の太いロープを取り付け多くの人で引いている。運搬ルートは役場↓田口酒店、ここで左折して北上↓白鳥駅前↓赤瀬通り↓曾我公明氏宅四差路を左折↓野々村薫氏宅(かじや)を通り、神社の前に到着。御神木には大きなスピーカーをつけて、荒井与造氏、三輪藤平氏らが木遣りを歌っている。道路わきには竹笹の色提灯が吊るされている。七夕飾りの様でもあるが、意味は解らない。消防団員から一般の人々の顔が見える。写真から確認できる方のお名前は、森下五郎、正者留吉、曾我善夫、瀬上斎一郎、日置賢三、寺田弥太郎、瀬木正三、内ヶ島喜三、正者史郎、細川勝朗、稲葉乙吉、曾我信一、渡辺伝二、金子健三、西村愛治、野々村政保、野々村二郎、西村兵衛、寺田利一、荒井政五郎、野崎勇進、三輪徳二郎、等の顔が見える(敬称略)すべての方が鬼籍に移られている。境内に運び込まれ、そこで刻んでいる。この時の大工棟梁は寺田弥太郎氏。自治会長が寺田利一氏だと思う。建て込みの穴は人力で掘り、古い鳥居の除去はクレーン、建て込みはフォークリフトとクレーンで行っている。写真で見える限り、多くの人が運搬から建て込み迄、関わって見える。一大行事だった事が伺える。

今回、大修繕に至るまでの経緯を概略申し上げますと、2014年8月3日、木の表面がスポンジ状に劣化しているところは削り取る。高所作業車にてクレーンで塗布する。拝殿腰壁下も塗布。

2017年11月26日、鳥居にキガタメールを注入、2018年9月4日、台風にて鳥居が傾く。根元を掘り起こし、立て直し、大々的に補修する。

2026年5月3日、大修繕を発議。5月16日、自治会役員、総代衆参加の元、工事安全祈願神事進行。即



日足場組開始。秋の祭礼までには完成を目論む。

鳥居の表面がスポンジ状のところが目立つ。その箇所は総て削り落とす事から始まった。



には悪いが引つ越し願った。劣化した部分を取り除くと、中は堅く、健在だった。このQRコードを開くと昭和四十七年に建立した当時の写真が見えます。PCで見ると大きな写真として見る事ができます。

稲成神社例祭

五月三日、稲荷神社の例祭神事を挙行。山田自治会長始め、多くの御来賓と神社総代含めて総勢三十八名の皆様で五穀豊穣、商売繁盛、春祭りの盛況を祈念いたしました。従来の春祭りは二日間盛大に行われましたが、近年、一日だけになってしまい、淋しい限りです。昔は神輿が沢山出て、祭りの主役でしたが、今は音楽がメインになり若者志向の感じがします。稲荷神社参道に樹齢約三百年余の樺の大木が立っており、十数年前より樹勢が衰え、北側半分が枯渇しております。平成二十六年に樹木医の診断を受け、枯渇が判明

し、いろいろと手当てをしておりますが効果が見られませんが。上部では一部の枝が枯れて落下の恐れがあり、数年前にレッカーを使い切り落しましたが、昨今では本体の倒壊が心配になってきました。回復の見込みが立たない今、切り倒すのも選択の一つかと思われます。

十数年前、本殿背後の大きな榎が倒れました。幸い被害はゼロでした。今回は榎が心配です。

稲荷神社の御神木は杉とされています。稲荷神社境内に杉以外はご法度なのだろうか？大きな柿の木も背後にあります。これも心配の種です。ご参拝の折はこんな事も思いながらお参りください。



三三研修会

五月三日、稲荷神社例祭神事の終了後に、総代衆を対象に三三研修会が開かれた。講師は瀬上孝男宮司で神社に於ける礼儀作法について約一時間、動作を交えながら行われた。

まずは神社に入る時、鳥居で立ち止まり、本殿に向かい深く一礼する。帰るときも一礼して辞去する。

手水場の作法は、右手で水を汲み左手のひらにかき、左手に持ち替え右手の平にかける、再度右手に持ち替え、左手の平に水を溜めて、口に運び、口をすすぐ。残りの水は柄杓を立て



て、柄の部分に流し、柄杓の柄を清める。これを、汲んだ一杯の水で行う。身を清めてから神殿に向かう。参道を歩く時は、中央を歩かない。中央は神様の通る道とされるため。

次に玉櫛法典の作法。社守から玉櫛を受ける。この時左手は玉櫛の下、右手は玉櫛の上にして受ける。そのまま神殿に進む。軽く会釈して、玉櫛を時計回りに回し、幹を下にして、祈禱する。玉櫛を時計回りに回し、幹の方を神殿に向けて机上に置いて一歩下がり、二礼し、二拍手、一礼して、自席に戻る。

これだけを約一時間で学びました。他の神社を参拝の時も、これだけ出来れば、常識として人様の見る目も変わり、神様も笑顔で迎えてくれるでしょう。

夏草刈り

例年の如く境内宮の森内と秋葉神社境内の夏草刈りを行いました。

毎年この時期に行うのは、夏草はこの時期、猛烈に繁殖し、周辺の樹木が育たない為です。刈り取った草は腐食して肥料になる利点もあります。今一つは、夏の土用の期間に土いじり、草刈等の作業は、土中に居る神様が怒り、祟りがあると言われてきました。したがって土用に入る前に行っていました。

今年の夏土用は七月二十日～八月六日

です。この中で土用の丑の日は七月二十六日です。夏は体の消耗が激しいので、それを補う意味でうなぎを食べると良いとされてきました。総代衆は草刈の後、体力回復の為にうなぎは高いので、境内の一隅で焼肉バーベキューにて鋭気を養いました。

「ご苦労様でした。」



みんなの俳句・投稿・その五

「動かねば 歩かねば老ゆ 春の風」・各務原市 中島泰司
「みなもたち しずかなるやま うごきたす」・そうすけ
「こもれ陽に 光る宮池 鯉涼し」・ひだまりシジ
「秋になり 恋も紅葉も 枯れるべし」・タケル
「宮掃除 会えない人に 今日会えた」・田中久子
「通い道 暑いと蝉が さげんでる」・田中幸子
「鯉ながめ 初夏の風 体にあびる」・詠み人知らず
「そびえ立つ 神の御木 見上げ受け
守りし御心 風と我通りぬく」・桑山
「天高く 神に寄り添う 大ケヤキ」・寅次郎

令和八年八月からの行事予定

8/1・・・宮の森41号発行
8/9・・・宮掃除
8/16・・・境内盆踊り
8/17・・・拝殿踊り
8/18・・・例祭関係者合同会議、祭りポスター張り
8/31・・・例祭大神楽稽古始め
9/6・・・宮掃除、幟旗建て
9/17・・・大神楽稽古納め
9/18・・・例祭準備
9/19・・・秋葉神社例祭・白鳥神社例祭試楽
9/20・・・白鳥神社例祭本楽
9/21・・・後片付け、反省会、七五三ポスター張り
10/18・・・宮掃除
11/3・・・初宮・七五三 神事。総代会
11/19・・・神送り
11/23・・・新嘗祭・左義長神事

御寄進・御奉仕

一、御朱印看板塗装修理・・・足立好教 様
一、東側玉垣洗濯清掃・・・足立好教 様
一、池貳大周辺草刈清掃・・・大村太郎夫妻 様
一、大鳥居修繕ボンド無償提供・・・寺田吉幸 様
一、花壇花植え・・・白鳥シニアクラブ 様
一、拝殿西側白壁無償補修・・・曾我 誠 様
心温かいご寄進、ご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(82)4387・瀬上宮司まで

(文責・瀬本)